

平成 29 年度第 2 回兵庫県立図書館協議会 会議録

1 日時及び場所

平成 30 年 3 月 9 日（金） 14:00～15:50

2 出席者

協議会委員 廣岡会長 尾崎副会長 西山委員 石堂委員
笹井委員 森玉委員 西野委員 小坂委員

教委事務局 社会教育課施設・管理班（施設担当）三木指導主事

県立図書館 善部館長 清宗次長
杉谷総務課長 西田利用サービス課長 井上ふるさと・資料課長

3 議事

(1) 平成 29 年度県立図書館事業実績について

次長より資料 1 に沿って平成 29 年度（4 月～1 月）の事業実績を報告

委員の質問・意見と図書館の説明

(委 員) 資料 1 の最後にある、地区別研修会と同日開催した「情報交換会」では、県内の図書館が具体的にどのような悩みや課題を抱えていることがわかったのか、いくつかあげてもらいたい。

(図 書 館) 主には、サービス部門においての接客に対する問題、悩みが多かった。特にあげれば、高圧的な来館者への対応、ご高齢の方で本を借りている記録があるにもかかわらず「借りていない」と言い切られる場合の対応など。それ以外では、来館者を増やすためにどのような工夫をしているのか、ということがあった。

(委 員) ますます高齢者が増えていく中で、図書館を居場所にしておられる方もおり、なかなか答えがでない問題であると思う。

(委 員) 来館者を増やすための工夫としてはどのようなものができたのか？

(図 書 館) 図書館にもよるが、POP づくり、展示している物の案内板の作製に力を入れているところ。イベントについては、子どもを中心に組み込んでいく、としているところが多く、読み聞かせを増やしたり、子ども向けの図書はどのようなものを増やしたらよいか、といったものができた。

(委 員) 例えば、高齢者を招いて昔遊び、紙芝居などをやったりしているところもある。高齢者を招いてイベントをすると、呼び水になってその縁者や関係者も来られることが多く、来館者増につながるのではないだろうか。

(委 員) 自身の地元の高砂市立図書館は新しくできた図書館であるが、先日来、認知症に関するイベントをよく開催している。そのなかで、認知症の絵本というものがあつて、子どもにも認知症のことがよくわかるようになっていて、という発見もあつた。講演会にはかなり多くの参加者があつて、こういった、今の「はやり」とでもいうか、興味をそそられるようなものをテーマにして取り入れていくことも大勢に来てもらうためには必要なことだと思う。

(図 書 館) 今年度は行っていないが、当館でも過去に 2 回、「健康」をテーマに認知症患者を抱える家族向けの講演会を、講師として保健所の所長で認知症に精通している方をお呼びして行ったり、兵庫県健康財団から資料を借りてパネル展示をしたりといった取り組みを行ってきた。先日、新聞でも図書館における認知症の方への対応についての記事があつたが、今後、いろいろな取り組みを行っていきたい。

(委 員) 子ども向けの認知症の本があるということを知らなかったが、子どもを呼び込むことができれば、その親御さんも呼び込み、来館者の増加につながるのではないか。

(委 員) 県立図書館がこれから目指していくべきところとして、私は、どれだけ多くの人に明石公園の中まで足を運んで来てもらえるよう努力をしていくか、ということがあると思う。ただ、それだけではなく、「図書館の中の図書館」として、これまで蓄積してきた専門書などをいかにそれぞれの地域、ブロックの図書館に持っていき、知ってもらおうかというこ

とに力を注ぐことも必要である。

兵庫県の歴史的、文化的なもの、今年であれば県政150周年に関するものを広く地域へ持っていき、多くの人に興味を持てるようなプログラムを作ることが大事だと考える。

その中で、大きな歴史として残っているものだけでなく、埋もれてしまっている小さな市民の文化的なものを掘り起こして残していくようなことを行い、自分たちの町の歴史や文化を知ることができるようになるのではないかと思う。

県立図書館は、再開館後、何をメインに、目標にしていこうとしているのかが知りたいところである。

(図書館) 兵庫県立図書館は、全国の都道府県立図書館の中で最も新しく昭和49年にできた図書館で、近隣に大阪府立など長い歴史を持つ図書館が多い中で、設立時に市町立図書館との差別化については相当意識してつくられた。それが「図書館の図書館」というあり方である。

二重行政が批判されるが、市町立を補うことが県立の大きな役割である。よって、蔵書も市町立と同様のものを揃えてははその役割を果たせず、市町立では購入しない少し高価なもの、専門性が高いものを多く揃え、市町立図書館を通じて県民のみなさんへ提供していく、ということが一番の役割だと考える。

また、県内の市町立図書館職員の能力の向上も担っていければ、と考える。

(委員) 県立図書館の基本的なコンセプトは変わらないが、県民市民の方々の要望により一般の市町立図書館のあり方に近づくことになった、という側面がある。

かつては、明石公園の中ということで良い環境にあるとの高評価であったのが、今では駅から遠すぎる、と言われてしまう。難しい面がある。ただ、市町立との差別化を明確にしていく必要はあると思う。

(委員) 県立が専門性の高い資料を揃え、専門的な事案に対応していくことを目標にしている中で、資料3ページにあるレファレンス件数が昨年度より大きく減っている。これは図書館の大事な機能の一つだと思うが、仮設での運営や移転作業などがあったことも影響しているのかもしれないが、このことについて、どのように分析し受け止めているのか？

(図書館) 県立として、レファレンスは非常に大事な機能だと考えているので、力をいれて取り組みを進めたいと思っているところで、大きく数が減っていることについては、大きな課題として受け止めている。

ただ、全国的にみて、レファレンス件数は逡減傾向にあり、インターネットの普及が大きく影響しているものと思われる。昨年度より大きく件数が落ち込んでいるのは、現在のところ仮設運営においては外部書庫に多くの資料を保管しており、取り寄せに半日かかるという不便さが影響しているものと分析している。

また、レファレンスは電話やファクシミリ、電子メールでも受け付けているが、多いのは直接来館されてのもので、利用者全体が減っているということも影響があると思われる。

これまでも言われてきたことではあるが、図書館では結構高度な調査も行っているが、それが一般利用者には知られておらず、もう少しPRできたらよいがと考える。

(委員) いろいろな専門機関が充実してきており、餅は餅屋というわけで図書館に電話して聞くよりも直接、専門機関へ電話して聞こう、ということになってきているのではないか。

いろいろな機関や研究施設、団体がそれぞれに相談機能を充実させようとしてきている中で、図書館では専門性にワンクッションおいてしまう印象がある。ただ、レファレンスは大事な図書館の役割であることに間違いはない。

(委員) ホームページからみると、レファレンス協同データベースがある。兵庫県立図書館が国立国会図書館のデータベースに登録した件数は144件あると思うが、1年間にどれくらいの件数を登録できているのか？職員数は少ないのに普段の業務をこなしながらデータベースに登録する作業は大変なことだと思う。

一般の方々の中でもこのデータベースを活用する人も増えてきている。そうすると、図書館に直接レファレンスを申し込まずともデータベースを見ればわかるものが増えてくる。他に各新聞社が出しているデータベースも含めそれらが充実していけば各個人で調べることが出来、レファレンス件数は減ることになる。

県下の市町立図書館では、どれくらいデータベース登録を行っているのか調べてみると、

三田市からあげた例はあるが、ほかの市町からはないようであった。おそらく、市町立では多忙でそこまで手が回らないのではないかと思うが、レファレンスはしていても登録ができていないのだと思う。そのあたり、司書へのデータベース登録に関する研修を行ってはどうか？

(図書館) 昨年度は、118 件登録でき国立国会図書館から感謝状も受けた。この数値は担当者が相当な残業、無理を行ったことでできた件数である。

今年度は7件のみとなっている。(後で図書館より、『本日現在 17 件登録済』との補足あり) 通常業務をこなした上ではこれくらいの数値になってしまう。

(委員) 感謝状を受けたことは何かで情報発信したのか？

(図書館) 当館のホームページに掲載した。

(委員) 新聞等への情報提供も考えられる。そういった実績が広く知られば、ホームページのアクセス数も大きく増えたのではないか。

(図書館) 小野市立図書館も感謝状を受けられた。神戸市立は県立よりも登録数ははるかに多い。市町立図書館でも頑張っているところはある。レファレンス協同データベースはあくまで国会図書館の事業なので・・・(感謝状をうけたことについての広報に注力していない)

(委員) データベース登録をすることについて一般的にアピールしているところはあまりないように思われる。

デジタル化が 25 年度以降止まってしまっているのは気がかりなところである。毎年計画的にできないものだろうか。

(2) 平成 29 年度第 1 回兵庫県立図書館協議会における意見・提言への対応について

次長より資料 2 に沿って対応状況を説明

委員の質問・意見と図書館の説明

(委員) 様々なテーマに基づいて多くの企画展示を行っているが、どのテーマに人気があったか、といった統計はとれていないのか？カウンターでも設置しないと難しいか・・・

大学では、ホームページを数年に 1 回以上の速さで改定している。

保護者がどれくらい入ってきたか、高校生はどこから、どういった角度で何について閲覧したかといったことを解析している。その分析を元にして改定するが、すぐに次の課題がでてくる。

学校関係へのチラシ配布は図書館周辺のみか？

(図書館) 明石市内の高校を中心に「リケジョ・リケオを目指そう！」の講座チラシを配布した。ただ、新聞にも取り上げてもらい、それ以降は他の地域からの申し込みもあった。

(図書館) うまくメディア、新聞に取り上げてもらい広報できれば反響が大きい。先月、桂紋四郎氏による落語会を開催した際は、新聞や「県民だより」にも掲載され多くの申し込みがありお断りもした。PR の仕方が課題である。

(委員) 時代のニーズに合ったものなら人気である。落語も今、ブームになっている。ニーズをキャッチする、アンテナを高く張っておくことが大事。最近では、将棋が人気である。

(図書館) 利用者は高齢者が多いこともあり、ホームページよりも紙媒体での反応がよい。逆に若い方であれば、『ネットで本を予約、受け取りは地元図書館でする』、という利用方法も多く、来館者数にはカウントされないという面もある。

(委員) フルにインターネットを活用する方と、アナログで紙媒体のみによる方との二極化になってきている。

(3) 兵庫県立図書館 中期運営方針に対する自己評価について

次長より資料 3 に沿って中期運営方針に対する自己評価を報告

委員の質問・意見と図書館の説明

(委員) 仮設であるということもあり、前年までと単純比較はすべきでない項目もあると思う。そして、さらに言えば、前年を上回ることだけが目標ではない。

目標値を設定し、それに対する達成度に対して評価を行うようなことも必要ではないか。経年比較は資料としては必要であろうが、評価の仕方は目標値に対してするという観点で行うようなことを考えてはどうか。

- (委員) 以前の会議でも仮設での運営であるからこそ外に出ていくことに力を入れるべきであるとの話がでたと思うが「学校サポート」や「セット貸出」が減っているのは残念。なぜ減ったのか？希望がなかったのか？
- (図書館) 「セット貸出」については、今年度は、学校の先生方への周知活動に力をいれ、各教科の部会でも案内や説明を行ったが、既に各学校でカリキュラムが組まれた後であったため取り入れてもらうことが難しく新規利用がなかった。ただ、興味は持ってもらったようで、問い合わせは結構あったので今後に期待したい。以前から利用されていた学校についても、仮設図書館であることで遠慮されたところもあった。
- (委員) 「セット貸出」について学校からはどういった内容の本の希望があるのか？授業の補完になるようなものか？貸出先は高校が主か？
- (図書館) 高校では現在、「調べ学習」に力をいれており、そこで活用されている。それぞれのテーマに合わせたものが求められる。例えば、修学旅行の前には行き先の歴史、風俗、文化に関するものなどで、「沖縄」をテーマとしたものなどは、年間を通して県内の高校を巡回しているような状態である。貸出先は高校が主である。市町立学校に対しては、市町立図書館がセット貸出しを行っているところもある。
- (委員) そういった意味では、県立と市町立の棲み分けができていくということになる。市町立図書館では、教育委員会との連携で市町立学校のセット貸出の予定が必ず入っているようである。教科書の単元に「調べ学習」があるため、各市町でも小学校レベル用のセット貸出の用意をし始めている。
- (委員) 「調べ学習」の効用で学力があがったという内容がNHKでも2週間前くらいに放映されていた。みなさんも「調べ学習」の大切さを気づき始めており、学校でも大いに取り組んでいるということであった。
小中学生には協同データベースの活用は難しいとは思いますが、パスファインダーは有効ではないだろうか。兵庫県立では作成されていないのか？
- (図書館) 当館では作っていない。
- (委員) 子ども向けのものを作っているところもあり、それらを県立のHPにぶらさげるなどしてはどうか？そういうものを使えばもっと学校との連携も行いやすいのではないか。
- (委員) 高校の課題研究レベルになると、調査・相談に関しては、図書館を経由せずに大学に直結し、大学の研究室にある資料などで対応したり大学の先生方が高校に来られたりしている。そういう意味では、隙間を埋められてしまい図書館が担うべき役割がなくなってきている。スーパーサイエンスハイスクール指定校では、京都大、神戸大などと提携を結んでいる。
- (委員) 最近では、論文なども簡単にパソコンでコピーできてしまう状況。ただ、それでは浅い学習になり、考えることが少ない。やはり、本のページをめくりながら、その前後に書かれていることも含めて取り入れることで考える力がついていくのだと思うので、結果にたどり着くまでの道しるべ的なものとし、パスファインダーを子どもや学生向けに図書館がHPに貼りつければ、学校の先生方もうまく活用されるのではないかと思う。

(4) 平成30年度県立図書館事業計画について

次長より資料4に沿って事業計画を説明

委員の質問・意見と図書館の説明

- (委員) 「+10: いつもよりプラス10分体を動かそう」は、どこが所管しているのか？
- (図書館) これは、ランニングなどで体を動かそうというもので、厚生労働省が『健康寿命を延ばすために10分多く体を動かすこと』を推奨していることを踏まえて当館が企画・展示するものである。
- (委員) 「県立図書館まで歩いてきてください」とし、来館の際にスタンプを押す、といったこともおもしろいかもしれない。
- (委員) 最寄り駅から図書館までちょうど歩いて10分くらいなので、それをアピールしては？
- (委員) (駅から図書館まで歩いた場合) 消費カロリーを掲示するのもおもしろい。
- (図書館) 専門講師を招いて講座を行いたい。明石公園の中を実際にランニングもできる。細かな企画はまだ決まっていないが、そういったことを考えている。
- (委員) 認定証を作る、などもどうか。

- (委員) 館外巡回イベントの中の県立美術館、博物館と合同実施の「スタンプラリー」では、どのような特典があるのか？
- (図書館) 集めたスタンプ数によりグッズがもらえる。
- (社会教育課) ほか、抽選で、神戸クルーザーの乗船券や城崎温泉巡りが当たる、などもある。
- (委員) 自身は、子育て NPO 法人を運営している立場として、そういったものもよいが、県立美術館には鑑賞中に託児してくれる NPO が入っており、スタンプがたまったら 2 時間無料託児券がもらえる、というのもよいのではないかと。子育て中の母親がゆっくりと過ごせる時間が持てるとうれしいはず。
- (委員) せっかくリニューアルオープンするので、それを中心に据えて何か積極的なアイデアはないのか？毎年、定例で実施する企画もあるだろうが、県全体の施設の中でもリニューアルするところは少ない。何十年に 1 回の絶好の機会ではないのか？
- 事業計画の中では、「リニューアル記念講座」が唯一となっている。もっと打って出てはどうか？以前から、隣接していた明石市立図書館が移転した後、明石公園の県立図書館に人が来てくれなくなるのでは、という危機感があつたはず。ピンチをチャンスに変えるような何か欲しいところである。
- (委員) 何か派手な目玉となるようなものはないか？県に在住の有名作家を招くなど。
- (図書館) 予算が少なく、ツテを頼って何名か県内在住の作家を候補にあげてあたってみたが、時期が合わなかったり、単独での講演はされない（よって、もう 1 名を呼ぶとなると経費がかかる）など、よりよい返事をもらえなかった。今後も引き続き、著名な方にアプローチしていく。
- (委員) まず連絡すること。とにかく積極的にお願いすれば、こちらの意図をくみ取って引き受けてくれる方もいるはず。
- (委員) 単独の講演を受けないが対談方式なら大丈夫という方であれば、事前に答えやすい質問を用意されていることもあるので、対談相手は誰でも良いわけではないだろうが、相手を館長がされるなどといった方法もあるのではないかと。
- (図書館) 何か目を引くようなものを考えたい。
- (委員) あかし市民図書館が非常に人気が高いのは、利便性だけなのだろうか？100 万人も来館があるのは何か秘訣があるのかと思いついてみたが、特段目立ったところはなく普通の図書館といった印象を持った。
- 驚いたのは、自習スペースの人気が非常に高く、並んで待っている学生が多く、また、屋外から見える閲覧席もあり、外から見て人がたくさん集まって利用されている様子がよくわかり、「何かあるのかな」、「自分も行ってみようか」と思ってしまう。
- 図書館に行って勉強しようという雰囲気を感じられるよう、居場所としての図書館がアピールできる図書館づくりをしてはどうか。口コミで評判が広がる仕掛けが必要。
- (委員) 明石市として色々な工夫をされているところもあるが、あれだけ利便性が高い立地条件のところにあれだけ広いスペースをとっているところはなかなかない。館内の動線の取り方にも工夫がある。
- (図書館) 自習室は時間制をとるなどとする事で、来館者の回転率を上げることで効率よく来館者数も伸びているよう。
- 図書館協会は、図書館は自習する場ではない、とはっきり言っている。当館ではかつては、自習者を断っていたが、現在は受入れている状況である。
- (委員) 本来の図書館利用の目的ではなく朝から一日席を占領してしまい、本当に調べものをしたい方が利用できない状況になり苦情、問題が起こっているところもある。
- (委員) 以前は、図書館に自習スペースを設けるべきではない、という意見もあつたが、今では高校生を中心に自習の場として定着してしまい、結構なスペースをとっているところが多い。
- (委員) (民間では) 自習スペースを時間貸しすることを生業にしておられるところもあり競争を避けることや、神戸市では図書館以外にも青少年センターに自習スペースがあることから、個人的には図書館を自習スペースとするのは少し違うのではないかと考えるところである。

- (委員) 資料2にある「来館者への取組み」のうち「在住外国人への配慮」として、「充実しているとは言いがたい」とされていた。その点の対応として、資料4(2)「ウ 生涯学習を支援するバランスのとれた館運営」の『障害者サービス等』の対象の中に「在住外国人」を含めると考えてよいか? 支援の対象者に含めてもらいたい。
- (委員) 生涯学習支援の対象に在住外国人を含めることは難しいであろう。障害者サービスとは同一にはできず、別の項目としてあげれば、何らかの対応をすることを確約することになる。
- (委員) 近隣の市立図書館には日本人が外国語を学ぶための資料はあっても外国人が日本語を学ぶための資料がなく、在住外国人が困っていることが多い。県立は市町立の後押しをする立場として、そういった資料を揃えられないものか。揃えられればそのことをPRしてもらいたい。
- (委員) 日本語を学ぶための資料を集めることはそう難しくはないであろう。将来を踏まえて、そういった資料を整備していく可能性はないことではない。今後、社会教育課や国際交流課と相談し、国際交流課からそういった資料の収集を図書館へ委託する形がとればよいと思う。
- (図書館) 兵庫県の政策のひとつである「多文化共生」にあたるものであるが、現在は予算が逼迫状況にある中で難しい。今後、できるだけ配慮していきたいが、事業計画の中に入れ込むことは、今の段階で十分な対応ができるかどうか確約しかねるため控えさせてもらいたい。

(5) その他 報告事項等について

次長より資料5に沿って工事完成とリニューアルオープンについて説明

委員所感

- (委員) 神戸市立中央図書館長という立場にある者として、自身の図書館のことも考えつつ話を聞き様々な課題があることを再認識した。さきほどの話にでた在住外国人への対応は、市町立で責任を持って行うべきことかと考える。神戸市では最近、ベトナム出身の居住者が増えてきており、今後対応を考えていかねばと思う。
また、今後、三宮での新設を控えて仮設運営をする予定であり、仮設運営に関するノウハウを伺えればと思う。
- (委員) 子育てと絵本、読書を同列の大切なものとして考えるお母さんが増えている中、実施する母親向けの講座で、本のことを中心にした内容の際に、ある大学の学長でアメリカで活動をされていた方を講師に招いたが、本の使い方について、感情をはぐくむだけでなくもっと知育に活用すべきといった持論を話された。捉え方にもよるだろうが、最近の母親は知育に興味が高い方が多く、素直に受入れる方も多いので、偏った考えに至ってしまうのではないかと心配になることがあった。
本、読書に関係する講師について、肩書きや名前だけでなく具体的にどのような話をしてくれるのかをどこかに聞けばわかるような仕組みを作ってもらえないだろうか。図書館だけでなく、私たちのような仕事をしている者が講師を探す際の助けが欲しい。
- (委員) 県立図書館としての役割を再認識したが、それでも人が来てこそその図書館という面もあると思う。県立図書館という場所を読書する場として好んで足を運んでもらえる場所にならなくてはいけない。
岡山県立が来館者日本一ということで行ってみたい、あかし市民図書館や他の都道府県立図書館にも行ったが、兵庫県立も現在の条件下では来館者数の状況も十分ではないかと思った。
兵庫県立図書館職員の「こういう図書館を作りたい」「やってみたい」「やってみよう」という熱い思いが発揮されると、図書館としておもしろさがでて、人が足を運んでくれるのではないかと期待する。
- (委員) 姫路市では数年前から調べ学習への対応については、それぞれの学校に学校司書を配置しその司書から市立図書館に依頼している状況である。小学校からの調べの習慣が、中学、高校、大学生となってもつながっていくので大事にしないといけないと認識した。

司書教諭は 12 学級以上に 1 人の配置となっているが、司書教諭のための研修の場が少ない。県立図書館で実施している事業について、市町教育委員会を通じて各学校にも広くアウトプットしてもらえれば、参加者も増えると思う。

学校司書は教員とは違い研修する機会が少ない。県立図書館で研修の門戸を開いて欲しい。

そして、学校サポートプロジェクトについて、フリースクール生も対象に含まれるよう、また、情報が届くようにできないか。

(委員) インターネットで子ども読書に関するホームページをよく見るが、全国都道府県立図書館の中で、唯一、兵庫県だけが子ども向けの本を置いてないと知って驚いた。

知人の中で昔読んだ絵本を探していたが見つからずに市立図書館や国立で聞いてもわからず困っている人がいた。

収集対象を限定的にしても子どもの本を集めてはどうか？リニューアルを機に収集方針を見直しては？市町立で収集困難な専門書としての児童書を収集できないか？このまま子ども向けの本を集めずにいってしまっているものか。

(図書館) 子ども向けの本を収集方針に含めることは難しい。

絵本の研究書はこれまでも収集しており、子ども向けの本に関するレファレンスも行っているが、収集方針を見直す予定はない。

(委員) 巡回やPRには出てはいるが、明石市を中心としているようだがもっと遠くへ足を運んで図書館のおもしろさを紹介するPRをすべきでは。

一昨年以来、仮設での運営中に「こんなことをやりたい」とためているものをリニューアル後に発揮してほしい。

(委員) 兵庫県の資料購入予算が全国最下位であることや、近頃、大学生の読書数が最低となったことにショックを受けたが、県立図書館はリニューアル後に何か大きなイベントを企画していただきたい。